

2/10 大学教員より聴く！からだと健康・医療のアレコレ耳より講座 第4回 みんなで守る子どもの安全

1. 子どもの事故の現状

死因の多くは交通事故、不慮の窒息、不慮の溺死が占めます。

2. 子どもの事故が発生する要因

生後3,4か月くらいまでは主に窒息、誤飲、自動車関連事故、転落事故が多いとされています。

5~9か月くらいの子どものは、座ったりハイハイができるようになることから、やけど事故が増えてきます。

さらに、9~12ヶ月や2~3歳以降では水まわりの事故が増えてきます。これらは浴槽やプール、海、川などの場所で発生します。

子どもの視野は大人の3分の2であり、専用のチャイルドビジョン（紙製のメガネ）を通した視界はとても狭いことに驚きました。

3. 子どもを事故から守るためにできること

事故防止策を7つのカテゴリーに分けて学びました。図を用いて説明され、とても理解しやすいものでした。

4. もしもの時の「応急手当」

事故時の6つのケースについて具体的な説明を受けました。誤って食べたり飲んでしまった時は、基本的には吐かせず、子どもが誤飲・誤食したものと同じものを病院に持参してもらうということは知らなかったの、少し驚きました。

◎自分の感想

受講者全員が熱心に勉強していました。幼児の特性を考え、これからの生活に役立てられるように具体的な対策を学びました。